

令和4年度事業報告

1. 企画委員会、役員会、第29回総会の開催

1) 企画委員会の開催

日時：令和4年7月5日

開催形態：Onlineによる開催

第29回総会の議案（①役員の改選について、②令和3年度事業報告、③令和3年度収支決算報告、④令和4年度の会費について（案）、⑤令和4年度事業計画（案）、⑥令和4年度収支予算（案）、及び、令和4年度事業の具体的な考え方（セミナー、ニュース、講演会等）、『知』の集積関係事項、並びに、産学連携支援、研究会の運営等に係る事項について検討を行った。

2) 役員会の開催

日時：令和4年7月13日

開催形態：Onlineによる開催

第29回総会の議案、その他研究会の運営等に係る事項について審議いただき、総会提出議案が承認された。

3) 第29回総会の開催

日時：令和4年7月13日

開催形態：Onlineによる開催

<議事>

- ① 役員の改選について
- ② 令和3年度事業報告
- ③ 令和3年収支決算報告
- ④ 令和4年度の会費について（案）
- ⑤ 令和4年度事業計画（案）
- ⑥ 令和4年度収支予算（案）

提出した議案はすべて承認された。

2. 産学連携支援事業

1) ニーズ・シーズの収集・提供

本事業における1)～6)の支援業務のため、民間企業、大学、国研・独法研究機関、公設試験場、産学連携機関、農業生産者・団体、行政機関等の担当者に対して、訪問、面談、メール・電話等の活動を行った。その実績は以下のとおりである。

訪問、面談、メール・電話対応の件数の推移

活動形態	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
訪問	6	6	8	7	8	5	14	12	4	5	3	6	84	67
面談	実面談	0	0	2	2	3	2	2	1	2	0	1	16	12
	web面談	0	2	2	0	5	1	1	3	1	8	0	24	27
	計	0	2	4	2	8	3	3	2	5	1	9	40	39
メール・電話	12	4	2	2	1	2	4	4	10	9	1	3	54	64
計	18	12	14	11	17	10	21	18	19	15	13	10	178	170

訪問、面談、メール・電話対応の機関種別実績

活動形態	民間		大学		国研・独法		公設試		産学機関		農業生産者・団体	行政機関		その他		計	
	異分野		異分野		異分野		異分野		異分野			異分野		異分野		異分野	
訪問	36	1	3	0	7	0	1	0	1	0	26	8	0	2	0	84	1
面談	実面談	7	2	2	0	1	0	3	0	0	0	1	0	2	1	16	3
	web面談	9	5	6	1	2	0	2	0	0	0	3	0	2	0	24	6
	計	16	7	8	1	3	0	5	0	0	0	4	0	4	1	40	9
メール・電話	20	2	2	0	9	0	2	0	0	0	9	9	0	3	1	54	3

訪問等の活動により収集した研究開発・事業化に関するニーズの一例は以下のとおりである。

	機関	分野	ニーズの内容
1	民間企業	食品販売	もち小麦、もち大麦の販路拡大
2	民間企業	農業生産	サツマイモの栽培技術
3	民間企業	食品加工	サツマイモ病害の防除方法
4	市町村	農業政策	農業法人の経営分析技術
5	民間企業	農業生産	農業への新規参入の方法

訪問等の活動により収集した研究開発・事業化に関するシーズの一例は以下のとおりである。

	機関	分野	シーズの内容
1	公設試験場	農業研究	サツマイモ病害の検定技術
2	民間研究所	農産物販売	新たな農産物マーケティング技術
3	民間企業	肥料製造	汚泥コンポスト肥料の開発技術
4	民間企業	施設園芸	農業経営のコンサル技術
5	大学	新技術	農業に応用できそうな新技術

2) 産学連携等のためのマッチング

支援活動の結果、マッチングに至った事例は以下のとおりである。

・事例①

もち大麦の製品化に関して生産者と食品企業をマッチングさせた。

・事例②

食品企業より、もち大麦の低発泡処理に関して相談を受け、同処理が可能な民間企業に対応を依頼した。

・事例③

もち小麦品種「もち姫」を活用したうどん商品の開発に関する相談を受け、東経連ビジネスセンターが提供する競争的研究資金に応募して採択され、製麺企業、JAと連携して新食感のうどん製品や餃子製品の開発・販売を進めている。

3) 研究開発資金制度の紹介等

(1) 研究開発資金の取得支援

令和4年度に研究開発資金の取得支援を行った実績は以下の表のとおりである。

	事業名	課題名	代表機関	採否
1	オープンイノベーション研究・実用化推進事業（生研支援セ）	超多収低アミロース米系統の育成（ステージ移行）	公設試験場	不採択
2	〃	革新的多収性ソバ育種母集団の育成	国研	
3	〃	アブラナ科野菜のスマート育種基盤の構築	大学	
4	〃	機能性飼料の開発基盤の構築	大学	
5	〃	シイタケの安定生産技術の開発	大学	
6	〃	木質バイオマス灰の循環利用研究	民間企業	

7	オープンイノベーション研究・実用化推進事業（生研支援セ）	機能性納豆の開発	民間企業	
8	〃	超多収低アミロース米の安定生産技術の開発	公設試験場	
9	戦略的スマート農業技術の開発・改良（生研支援センター）	トマトの新栽培技術の開発	民間企業	採択
10	科学研究費助成事業（日本学術振興会）	害虫の体系的リスク評価法の開発	国研	不採択
11	新事業開発・アライアンス助成事業（東経連ビジネスセンター）	もち小麦を活用した新食感うどん、餃子の開発	民間企業	採択

4）商品化・事業化の支援

(1) 研究支援者等の活動

イノベーション創出強化研究推進事業等において、それら事業への獲得支援を行い、採択された課題について、コーディネーターが研究支援者あるいはアドバイザー等として研究グループに携わり、商品化・事業化に向けた支援を継続した。本年度、支援した課題は以下のとおりである。

	事業名	採択年度	課題名	代表機関
1	イノベ強化事業	H30年度	薬用にも使える高品質ハトムギ品種の開発と高度利用	農研機構 遺伝資源研究センター
2	〃	R2年度	チルド米飯ニーズと加工製造課題に即応する超多収低アミロース米系統の早期育成	岩手県農業研究センター
3	〃	R1年度	畑作の省力化に資する生分解性プラスチック分解酵素の製造技術と生分解性農業資材利用技術の高度化	農研機構 農業環境研究部門
4	新事業開発・アライアンス助成事業	R4年度	新規生地特性を有する「モチ小麦：もち姫」を用いた新食感‘もちもち姫うどん’及び‘もちもち姫餃子’などの開発	賢治の土株式会社

(2) 商品化・事業化の支援

支援活動の結果、商品化・事業化に至った事例は以下のとおりである。

<商品化・事業化に至った事例>

・事例①

もち大麦「はねうまもち」を製品としてスーパーの産直コーナーで販売開始した。

<商品化・事業化に向け支援をすすめている事例>

・事例①

食品販売会社より、もち小麦「もち姫」を活用したうどん商品の開発に関する相談を受け、東経連ビジネスセンターが提供する競争的研究資金に応募して採択され、製麺企業、JAと連携して新食感のうどん製品や餃子製品の開発・販売を進めている。

・事例②

福島県の放射能汚染地域の復興を支える重要な作物の一つとしてサツマイモがクローズアップされている。そこで、東北ハイテク研では、福島県の複数の市町村、企業からの依頼を受けてサツマイモ栽培技術を指導するとともに、産地化・商品化・事業化を支援している。

・事例③

もち大麦「はねうまもち」の商品化については、米との混合炊飯以外の多様な用途開発が注目されており、企業の注目度も高い。そうした企業の商品化の問い合わせに対して、新たな処理加工技術をアドバイスして商品化・事業化を支援している。また、醸造用大麦の加工技術に関しても民間企業から問い合わせがあり、商品化の支援を行っている。

・事例④

農業ビジネスへの参入を希望する企業に対して様々な情報提供を行い、新たに立ち上げる農業事業の内容を意見交換しながら検討してきた。その結果、最終的には山形県で環境制御型の施設園芸事業にチャレンジすることになった。今後は、事業の成功に向けて支援を継続していく予定である。

・事例⑤

大手種苗メーカーから種苗販売のアイテムを広げるための一つとしてサツマイモを取り上げるかどうかについて相談を受けて支援した。その後、社内検討の結果サツマイモの品種改良を事業の一つに加えることが決定されたので、そのための施設、資材、技術について現在情報提供を行い、事業の推進を支援している。

5) セミナー等の開催状況

異なる分野の革新的な発想や先端技術を活用して、東北農業の技術革新や農業ビジネスに取り組むための機会を農林水産業者、食品産業事業者、研究機関・行政・普及などの関係者に提供する場とするためのセミナー、相談会等を開催した。

セミナー、相談会等の開催回数は、10回で参加者総数は633名であった。開催形態は、オンライン+対面（ハイブリッド）が3回、オンライン配信が6回、対面型1回で実施した。

(1) セミナー「紫波町農業の未来を一緒に考えてみませんか ～紫波町の持続可能な農業創造のために～ 令和4年度第1回 水稻の直播栽培の歩みとこれからの取り組み」

日時：令和4年6月13日(月) 13:30～16:00

形態：ハイブリッド(リアル+オンライン(zoomライブ配信))

会場：JAいわて中央紫波支所 2階大ホール

(岩手県紫波郡紫波町桜町字上野沢38-1)

<次第>

1. 報告

「ワークショップ『紫波町の10年先の農業の姿』に関する参加者意見の特徴」
農林水産省産学連携支援コーディネーター 門間 敏幸

2. 講演会

1) 「水稲直播栽培の足跡と展望」

水稲直播研究会 中央委員 梶木 信幸 氏

2) 革新的技術の紹介

(1) 「究極の作期分散『初冬直播き技術』が拓くコメ生産の未来」

岩手大学農学部 教授 下野 裕之 氏

(2) 「水稲無コーティング種子の代かき同時浅層土中播種栽培」

農研機構 中日本農業研究センター 水田利用研究領域長 白土 宏之 氏

(3) 「JAいわて中央での鉄黒コート導入事例紹介」

JAいわて中央 営農販売部 米穀推進課

<結果>

梶木信幸氏より戦後の水稲栽培、様々な直播の取り組みの歩みが説明されるとともに、下野裕之氏より新たな水稲生産技術である「初冬直播」、白土宏之氏より根出し種子を利用した無コーティング湛水直播技術などが紹介された。(参加者57名)

(2) セミナー「紫波町農業の未来を一緒に考えてみませんか～紫波町の持続可能な農業創造のために～ 令和4年度第2回水稲直播栽培現場の視察」

日時：令和4年7月12日(火) 9:30～11:30

形態：リアル

会場：岩手大学農学部滝沢農場 (岩手県滝沢市菓子1552)

<次第>

1. 「水稲の直播栽培の現状ならびに革新技術「初冬直播き」の概要」

岩手大学農学部 下野 裕之 氏

2. 岩手大学滝沢農場の取り組み

1) 「岩手大学滝沢農場の概略と初冬直播き」

岩手大学農学部

附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 由比 進 氏

2) 「岩手大学滝沢農場で行っている初冬直播きおよびグレーンドリルを用いた水稲乾田直播」

岩手大学 滝沢農場 西 政佳 氏

3. 現場からの報告

1) 「八幡平市での初冬直播き飯米の取り組み」

(株) かきのうえ 立柳 慎光 氏

2) 「北上市での初冬直播きWCSでの取り組み」

(株) 西部開発農産 菅野 一成 氏

4. 意見交換&現地検討

<結果>

岩手大学の農場において、新技術の実証圃を観ながら、各講師から説明を受け、様々な視点から意見交換を行った。生産者からは、話を聞くのと自分で見て感じるこの違い、話しだけでは自分で取り組む自信が持てなかったが自分でも取り組みに前向きになったなどの感想が述べられた。(参加者35名)

(3) 講演会

日時：令和4年7月13日(水) 15:15～16:30

形態：オンライン(zoomライブ配信)

<次第>

講演：「スマート農業実証プロジェクトの取り組みから見るスマート農業普及の可

能性と課題」

株式会社日本農業サポート研究所 代表取締役 福田 浩一 氏

<結果>

日本農業サポート研究所の福田浩一代表からの講演を受けて活発な質疑討論が行われた。特に中山間地域におけるスマート技術の効果的な活用方法、労働節減だけでなく収量向上・品質向上の重要性、農家の意見を聞いて技術の改良を行うことの重要性について質疑討論が行われた。(参加者82名)

(4) セミナー「スマート農業実証プロジェクトにおける経営データの有効活用の方向」

日時：令和4年8月30日(火) 13:15~15:30

形態：オンライン(zoomライブ配信)

<次第>

1. 「スマート農業実証プロジェクトで得られた経営データをどう活用するか」
農研機構 本部 企画戦略本部 農業経営戦略部
営農支援ユニット ユニット長 松本 浩一 氏
2. 「超大規模実証経営体におけるスマート農業技術の導入効果と経営データの有効活用の実態」
農研機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域
生産力増強グループ グループ長補佐 宮路 広武 氏
3. 質疑討論

<結果>

松本浩一氏と宮路広武氏からの講演を受けて活発な質疑討論が行われた。質疑討論では、果樹などにおける標準経営データの作成方法、利益目標の設定の是非、WAGRIにおけるデータ更新の方法、スマート機器の整備点検やセンシングなどの費用の評価方法、集めた経営・作業データの活用方向などについて行われた。(参加者104名)

(5) セミナー「改正された種苗法を学ぶ」

日時：令和4年9月21日(水) 13:30~15:30

形態：オンライン(zoomライブ配信)

<次第>

1. 「改正種苗法について(法改正の概要と留意点)」
農林水産省 輸出・国際局 知的財産課 課長補佐 松山 亘克 氏
2. 「農研機構育成の登録品種の自家用の栽培向け増殖に係る許諾について」
(国研) 農研機構 本部
知的財産部 知財・育成者権管理役 山本 俊哉 氏
3. 「植物品種の海外での保護や育成者権の侵害を防ぐ取り組み」
(公社) 農林水産・食品産業技術振興協会
イノベーション事業部長 永田 明 氏

4. 意見交換

<結果>

農林水産省の知的財産課から種苗法改正の狙いと内容、農研機構の知財・育成者権管理役から自家増殖の定義と取り扱い、JATAFFのイノベーション事業部から品種の海外流出の実態と対策について話題提供を受け、活発な論議が行われた。今回の改正により法的な穴はなくなったものの、違法に持ち出され、それが広がってしまった場合は対応のしようがないことが多いため、そのための素早い対応が求められることが指摘された。(参加者75名)

(6) セミナー「有機農業の現在とこれからを考える」

日時：令和4年11月18日(金) 13:15～15:45

形態：ハイブリッド(リアル+オンライン(zoom))

会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM仙台西口 カンファレンスルーム8C

(宮城県仙台市青葉区花京院1-2-15 ソララプラザ)

<次第>

1. 「有機農業の国際比較と将来展望」

東北大学大学院農学研究科 教授 石井 圭一 氏

2. 「有機栽培技術の開発の現状」

農研機構 中日本農業研究センター

温暖地野菜研究領域 有機・環境保全型栽培グループ長 三浦 重典 氏

3. 「有機農業の実践者として」

宮城県 大崎市 佐々木 陽悦 氏

4. 「有機農業推進のための各種の施策について」

農林水産省 東北農政局 生産部 生産技術環境課長 飛鳥 武昭 氏

5. 意見交換

<結果>

わが国における有機農業の現状と今後の方向性、関連する技術開発の状況などの紹介と議論が行われた。石井圭一氏はフランスなどの事例を中心に有機農業が増加している状況とそれを支える要因について、次いで、三浦重典氏から有機栽培における除草技術の開発の現状について、宮城県大崎市の佐々木陽悦氏からは有機農業へ取り組むようになった経緯から有機水稻栽培技術の確立に向けての取り組みと今後の問題点について講演があった。東北農政局・飛鳥課長より、有機農業推進のために農水省が行っている施策が説明された。これらの講演について、リモートで多数の質問があり、活発な意見交換が行われた。(参加者123名)

(7) セミナー「植物品種のブランド化のための知財戦略」

日時：令和4年11月24日(木) 13:30～16:00

形態：オンライン(zoomライブ配信)

<次第>

1. 講演

1) 植物品種のブランド化のための知財戦略

(1) 基調講演

押久保政彦国際商標特許事務所 押久保 政彦 氏

(2) 具体的事例

①イチゴ品種「あまおう」

(公財) 福岡県農業振興推進機構理事長 鐘江 義広 氏

②サツマイモ品種「シルクスweet」

カネコ種苗(株) バイオナーサリー部 部長代理 上島 武 氏

2) 知的財産を活用するための総合的な支援活動について

独立行政法人工業所有権情報・研修館 (INPIT)

2. 意見交換

<結果>

植物品種の保護に係る権利について幅広く学ぶとともに、ブランド化への対応方法を図る際にどのような対応が必要かについて押久保政彦氏から、またイチゴやサツマイモで商標を活用したブランド化と販売展開について鐘江義広氏と上島武氏から話題の提供を受け、さらに大野瑛子氏から知的財産活用のための情報提

供があり、今後の植物品種のブランド化や普及について意見交換を行った。（参加者91名）

(8) 競争的資金への応募に向けた個別相談会

日時：令和4年12月21日(水) 10:00～17:00

形態：ハイブリッド(リアル+オンライン(zoom))

会場：東北ハイテク研事務室(岩手県盛岡市下厨川字赤平4)

<次第>

オープンイノベーション研究・実用化推進事業その他の競争的研究資金等に応募を予定している方々に対し、研究資金制度の紹介、競争的研究資金への応募を支援（研究計画書の作成支援、ブラッシュアップ等）するため、個別相談会を開催。

<結果>

民間2件・大学1件の申込があり、1課題あたり1時間程度で、それぞれの提案予定課題について応募書類の作成等について助言等を行った。相談者からは、引き続き応募に向け提案書の作成等に関する支援の要請があった。（参加者12名）

(9) セミナー「コロナ後の東北農業・農村・食資源を活用した交流・観光の新たな展開を展望する（第2弾）」

日時：令和5年2月7日(火) 13:30～15:35

形態：オンライン（zoomライブ配信）

<次第>

1. 「ユネスコ食文化創造都市 鶴岡市の取組」

鶴岡市 企画部 食文化創造都市推進課 課長 三浦 裕美 氏

2. 「東北・岩手における着地型観光と観光コンテンツの開発による関係人口・交流人口の拡大」

トラベル・リンク株式会社 代表取締役副社長 北田 公子 氏

3. 「多様な特産品の販売で福島の復興を担う」

公益財団法人福島県観光物産交流協会 物産部

観光物産館 館長 櫻田 武 氏

<結果>

コロナ後を見据えた東北地域の観光開発や交流促進、インバウンドへの対応、さらには東北の優れた農産物や食品、農村社会や食文化を戦略的に国内外に発信する取り組みについて、専門家から話題提供をいただいた。質疑討論では、食文化を楽しむツアー、相互交流プログラム、物産館の主要な顧客等、交流・観光の主要なユーザーの集客範囲と集客方法などについて質問が集中した。また、農家に与える経済効果、交流アイデアの発想、交流活動の組織化等のマネジメント視点からの質疑も行われた。多くの地域、多様な職種の方が参加し有意義なセミナーとなった。

（参加者39名）

(10) 競争的資金への応募に向けた個別相談会（第2回）

日時：令和5年2月17日(金) 10:00～17:00

形態：オンライン(zoom)

<次第>

農林水産省が実施しております提案公募型の競争的研究資金（オープンイノベーション研究・実用化推進事業その他の競争的研究資金）等に応募を予定されている皆様に対し、研究資金制度の紹介、競争的研究資金への応募を支援（研究計画書の作成支援、ブラッシュアップ等）するため、個別相談会を開催。

<結果>

民間2件・大学3件・公設試1件の申込があり、1課題あたり1時間程度で、それぞれの提案予定課題について応募書類の作成等について助言等を行った。相談者からは、引き続き応募に向け提案書の作成等に関する支援の要請があった。(参加者15名)

5) 技術交流展示会の開催等

独自開催はしなかったが、アグリビジネス創出フェア2022に出展し、東北地域での技術シーズ・研究成果等を展示した。